

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500613
法人名	(有) もみじ
事業所名	グループホームもみじの里
所在地	福岡県宮若市上大隈675-1 (電 話) 0949-33-1639

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 6 日	評価確定日	平成20年10月16日

【情報提供項目より】(20 年 8 月 24 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニ	利用定員数計	9 人
職員数	11 人 常勤 3 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4 人		

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	光熱費・リネン
敷 金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	160 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 24 日現在)

登録人数	9	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.6 歳	最低 66 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安倍内科 塩川歯科 宮田病院 菅井眼科 他
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「もみじの里」は旧石炭産出地の静かな住宅地にある木造平屋建ての一ユニットのホームである。開所四年目になり、地域の老人会、運動会、子ども会等自治会活動への参加や交流から、「今日は笑顔がいいね・・・」など近所の方の声かけがあったり、白寿のお祝い時に近所の方が白の帽子・チャチャンコを作ってプレゼントしていただく等、以前から地域の中にホームがあったかのように自然と受け入れられている。このような一年間の暮らしをまとめた「もみじ微笑み日記」は年々充実し、入居者や家族に大変喜ばれている。今回、入居者本人や家族の希望でホームで安らかな看取りを実践している。職員は可能な限り家族・身内の気持ちで関わっているが、ホーム理念やスタッフの姿勢が評価されこれからの励みになっている。また、入居者の提案で手作りのお雛様を持参した小学校児童との交流が大変喜ばれたり、今後は中学校の生徒の見学受け入れも予定している。そして、地域同業者で発足したGHみやわかに参加し、勉強会や研修で介護の質の向上に取り組んでいる。さらなる地域連携で地域密着型サービスへの躍進が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価の意義を理解し、運営理念や重要事項説明書は見やすい位置に掲示している。東京センターアセスメントシートを活用し、介護計画の充実を図っている。受診結果を記載したファイルの整備や、随時家族に報告し記録を整備している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で取り組んでいる。改善計画シートを作成し改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 適正なメンバーで各月に開催し、前回の議題の見直しやホーム運営や行事の報告、当日の意見など詳細な議事録を整備している。書記の職員は毎回代わることで、会議内容を把握している。参加者から積極的な意見等が出され、ホームの運営に活用されている。また、参加している行政担当者に市の行事案内、流行している感染性疾患やホームが注意することなどの情報提供をお願いしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 家族が一月に一度、必ず利用料の支払いに訪問されるので、面談にて入居者の状況を報告している。もみじ通信を2ヶ月に1回発行したり、遠方の家族に入居者の声を電話で聞いていただき、近況を報告している。職員2名で金銭出納に関わり、家族に確認印をいただく等で明瞭な管理をしている。退職者のお別れ会をホーム内で入居者と共に開催している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会活動に地域の一人として参加する事で、近隣の方々にホームへの親近感を持っていただいたり、わくわくクラブの集いに入居者と参加し交流している。管理者が小学校で高齢者やグループホームの話をする機会があり、大変喜ばれている。時には地域の話し合いの場所としてホームを提供する事もある。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「関係市町村・地域の方々との交流を図り、家族の方々も家庭の一環として過ごせる場の提供に努める」との運営方針を定め、理念を掲示して、地域と連携しながらホームを運営している。隣組に入会し、ホームが1つの隣組として地域とかかわっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は機会ある毎に理念を話し、職員はタイムカードの打刻時や玄関掃除の時に唱和している。「おかえりなさい」の言葉に笑顔を載せて、馴染みや安心のある生活を提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動に地域の一員として参加する事で、近隣の方々にホームへの親近感を持っていただいたり、わくわくクラブの集いに入居者と参加し、地域の方々と交流している。管理者が学校で高齢者やグループホームの話をする機会があり、大変喜ばれている。時には地域の話し合いの場所としてホームを提供する事もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で取り組んでいる。改善計画シートを作成し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を適正なメンバーで隔月に開催し、前回の議題の見直し、ホーム運営や行事の報告、当日の意見など詳細な議事録を整備している。参加者から積極的な意見等が出され、ホームの運営に活用されている。また、参加している行政担当者に市の行事案内、流行している感染性疾患やホームが注意することなどの情報提供をお願いしている。職員は書記として毎回交代で会議に参加するので、会議内容を把握している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の結果を行政窓口に出している。日頃より行政担当者から市の行事やホーム運営に関する情報提供があり、サービスの質の向上に活かしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	福岡県グループホーム協議会やFブロックの成年後見制度等の研修会に積極的に参加し、スタッフ会議で伝達している。入居者や家族に説明するためにパンフレット等を整備している。	○	入居説明時や必要に応じて、制度等を説明した記録を整備していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が一月に一度、必ず利用料の支払いに訪問するので、面談にて入居者の状況を報告している。もみじ通信を2ヶ月に1回発行したり、遠方の家族には入居者の声を電話で聞いていただき、近況を報告している。職員2名で金銭出納に関わり、家族に確認印をいただく等で明瞭な管理をしている。退職者のお別れ会をホーム内で入居者と共に開催している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談苦情窓口を明記し、玄関に意見箱を設置している。家族会は発足していないが、家族の参加がある秋祭りや運営推進会議で意見交換をしている。家族から、残っている歯を大切にしたいので、本人が歯の洗浄した後に歯磨きをしてほしいとの要望があり、実行している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する時には、入居者への挨拶を兼ねたお別れ会を開くことで離職のダメージを軽減している。また、妊娠、出産で離職した職員が子供を連れてホームを訪問することが入居者の喜びになっていることから、子育て中の職員が働きやすいような勤務体制にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	県的生活労働部労働局雇用開発課に「子育て支援」の職場として登録し、子育て中の方や年齢の制限等を設けず人材を募集し、介護に適した方を採用している。雇用契約書、服務規程を整備し、職員の定期健康診断を実施している。休憩時間には買い物に出かけたり、入居者さんと一緒に自由に過ごしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	福岡県グループホーム協議会やFブロック主催の人権に関する研修等に、積極的に参加している。社協から配布された人権に関するパンフレットなどを窓口に整備し、人権を啓発している。運営規程に身体拘束防止について明記している。	○	人権の高齢者虐待防止マニュアルの整備や研修実施と議事録の整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒者等初めて介護に従事する職員は、福岡県グループホーム協議会の新人研修やFブロックの研修に参加し、ホーム内の勉強会で成果を発表している。全職員が意欲や問題意識を持つように、月に1度のスタッフ会議の運営に携わるようにしている。管理者は職員が悩みなどを話し易い雰囲気作りをしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入し研修会に参加している。地域の11同業者で設立したGHみやわか主催の定期的な勉強会で、地域の連携とサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはホーム見学をお願いしているが、3名の新規入居者の1名は2日間の体験入居から入居に至っている。病院から直接入居される場合は、本人の不安を取り除くよう、家族や周囲の人と話し合いや連携で、安心して生活していけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居される以前の生活歴や職歴を把握し、それに合った会話をしたり、得意な事は手伝ってもらっている。オヤツの時間や休憩時間を利用して入居者の意向をじっくり聞き、職員はいつも笑顔で接し支え励ます姿勢をとっているが、時には子育てや生活上のアドバイスをもらったり、入居者の笑顔に癒されたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式アセスメントシートで把握した各入居者の生活リズム・意向を、第3表(週間計画表)に落とし込むようにしている。担当の職員を決め、日頃から行きたい場所や行いたいこと、暮らし方の希望等を表現しやすい関係を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で担当職員から入居者の思いや意向、気付き等の報告があり、個別性のある介護計画を作成している。家族の来訪時に介護計画について説明し、署名をいただいている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングや入居者や家族の意向に沿って、3ヶ月毎に介護計画を見直しているが、入居者の状況に変化があれば、家族に報告し、スタッフ会議で計画を見直している。見直した計画は、家族に説明し署名をいただいている。	○	実施しているモニタリングや担当者会議に沿った介護計画を作成するためにも、モニタリングや担当者会議の日付を明記していただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や希望医療機関受診を支援し、重度化を防止して。衣替えや家屋の風通しの希望で一時帰宅を支援したり、年1回の温泉旅行など行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に月2回訪問診療をお願いしているが、必要に応じて受診や往診もお願いしている。眼科や皮膚科、歯科など受診も支援している。受診結果を記載したファイルを整備し、随時家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望で入居者1名の看取りを行った。職員は、最後までお世話をさせていただく事で思いを共有でき、意識とサービスの質の向上に繋がっている。	○	終末期に対する指針や対応マニュアルを定め、早期から本人、家族やかかりつけ医等と話し合いの機会を持ち、関係者全員の方針の統一を図ると共に、変化に応じて繰り返し話し合いを行い、記録を整備していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護労働安全センター主催の人権研修に参加し、人権やプライバシーを尊重したケアを実施している。入居者の意向に沿うように根気強く丁寧な対応をしている。	○	個人情報保護に関する規程の掲示や同意書の整備をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで食事が出来るように見守りをしている。入浴も本人の希望で順番を変えている。入居者が話し合いで役割を決め、できることを手伝っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全職員と一緒に食卓を囲み「いただきます、ご馳走様」等の挨拶や会話をしながら、食事をしている。食後は各自下膳をして、全員が終わると食器洗いの手伝いをしている。時には外食を楽しんだりしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・木・土曜に入浴しているが、入居者の希望で誰でも1番に入浴できるように順番を決めている。入浴剤を入れ、気分よく入ってもらっている。入浴拒否者は居ない。夏場は何度もシャワーを使ったり、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手を使う、頭を使う事を考慮し、すごろくや陶芸をしたりお雛様を作っている。手作りのお雛様は、入居者の発案で小学校の生徒にプレゼントし喜ばれている。また、役割作りや楽しみ事として犬のお世話、草むしり、水遣り、花壇の手入れ、食器洗いなど入居者にお願ひし、労いの言葉をかけている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	次の月の行事は入居者と一緒にスタッフ会議で計画している。買い物やホーム周囲の散歩、近隣の神社に行ったり、建て前の餅拾いに出かける。ホーム庭での外気浴や天気の良い日にはお弁当を持って出掛けて、季節を肌で感じたり、ストレス解消になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19:00～翌朝5:00の夜間帯は保安の為施錠しているが、日中は施錠せず、チャイムを設置している。近隣の方にも理解や協力をし、いただき、入居者の外出に、見守りや声掛け、連絡等がある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・避難訓練は行われ、ホールや各部屋に避難経路図を提示している。飲料水・インスタントラーメン・缶パン・団子汁・おむつ等の備蓄をし、賞味期限を把握し補充している。	○	火災以外の災害も想定した非常災害マニュアルの作成をお願いしたい。また、避難訓練の際に、地域の方々にも協力していただけるように運営推進会議等で呼びかけられてはいいのでしょうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎に食事・水分摂取量を記録している。入居者の状況に応じて減塩食にも対応している。毎月2回の体重測定で体調の変化に早期に対応できるので、今のところ体重が減少している入居者はいない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節の花を飾り、家庭的な雰囲気になっている。アロマセラピー(スイカズラ)でリラックスして頂いている。共用空間のソファや椅子、テーブルは安全性を重視し、動き易いように配慮されている。各部屋の入り口には入居者の笑顔が溢れたアルバム用の行事写真がアレンジされて飾られている。廊下の飾り棚には入居者の作品が展示されたり、亡くなられた方の写真が飾られ全員で生前を偲んでいる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと収納できる備え付けの納戸がある。ベッド周囲には入居前に使用されていた箆箆や仏壇などを持ち込み、自由に飾り付けがされ個性的な居室づくりがある。訪問した家族もゆっくり寛いでいる。		